

関 周 辺

明治3年、久良岐郡の郡役所が関の東樹院の付近に設けられ、周囲には登記所、郵便局、警察署などが置かれ関は久良岐郡の中心地となった。周辺には料理屋、宿屋、代書屋、質屋、散髪屋などが軒を並べ久良岐郡の行政、司法、教育の中心となり大いに賑わった。

金沢道(現在の笹下・釜利谷道路)は明治政府により拡幅され国道となり金沢、鎌倉への道として重要な任を担うとともに村の繁栄の基をなしていた。明治37年、新道の開通により金沢道は利用価値が減り村道に格下げ、昭和初年に県道17号となり今日に至る。

§ 料亭「石川屋」

明治11年に英照皇太后が、17年には同皇太后、明治天皇妃が金沢への行啓の途中、数十名のお供の者とともに休息された。当時の大小20余棟の貴重な建物は残念ながら昭和14年に解体されてしまった。



石川屋 絵図

昭和40年ごろの関商店街



現在(平成22年)の関商店街



(現在の関バス停付近から打越方面を臨む)



関(せき)古式囃子

横浜市の伝統的民族芸能の中でも高い評価を受けている関古式囃子は毎年春の本牧三溪園梅祭りで保存会によって披露される。